

第2章 計画地及びその周辺の概況

2.1 関係市町村の概要

十勝圏複合事務組合を構成する市町村は、十勝総合振興局管内と同じく帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町及び浦幌町の19市町村である。



図 2.1.1 構成市町村位置図

2.1.1 土地利用

各市町村における土地利用状況を表 2.1.1 に示すとおりである。全体の地目別面積のうち「山林」の面積が最も大きく、次いで「その他」、「畑」の順である。

表 2.1.1 十勝圏複合事務組合を構成する市町村の土地利用

			田	畑	宅 地	鉱泉地	池 沼	山 林	牧 場	原 野	雑種地	その他	計
帯広市	面積	km ²	—	230.73	36.36	0.00	0.06	41.20	6.88	10.83	22.76	270.51	619.34
	構成比	%	—	37.3	5.9	0.0	0.0	6.7	1.1	1.7	3.7	43.7	100.0
音更町	面積	km ²	5.20	227.81	18.06	0.00	0.01	109.79	57.00	10.42	15.78	21.94	466.02
	構成比	%	1.1	48.9	3.9	0.0	0.0	23.6	12.2	2.2	3.4	4.7	100.0
士幌町	面積	km ²	—	149.30	8.56	0.00	—	47.28	12.74	2.73	3.93	34.64	259.19
	構成比	%	—	57.6	3.3	0.0	—	18.2	4.9	1.1	1.5	13.4	100.0
上士幌町	面積	km ²	—	99.41	5.03	0.00	8.94	532.67	16.65	21.08	3.35	8.73	695.87
	構成比	%	—	14.3	0.7	0.0	1.3	76.5	2.4	3.0	0.5	1.3	100.0
鹿追町	面積	km ²	—	119.74	5.83	—	1.82	201.55	8.86	4.50	1.75	60.64	404.70
	構成比	%	—	29.6	1.4	—	0.4	49.8	2.2	1.1	0.4	15.0	100.0
新得町	面積	km ²	—	62.46	5.05	0.00	1.36	79.50	5.82	19.63	26.45	863.56	1063.83
	構成比	%	—	5.9	0.5	0.0	0.1	7.5	0.5	1.8	2.5	81.2	100.0
清水町	面積	km ²	—	145.02	7.42	0.00	0.01	178.38	20.29	15.68	7.21	28.25	402.25
	構成比	%	—	36.1	1.8	0.0	0.0	44.3	5.0	3.9	1.8	7.0	100.0
芽室町	面積	km ²	—	214.19	10.75	0.00	0.85	218.43	8.62	12.39	18.32	30.21	513.76
	構成比	%	—	41.7	2.1	0.0	0.2	42.5	1.7	2.4	3.6	5.9	100.0
中札内村	面積	km ²	—	69.45	3.79	—	1.91	187.31	0.73	3.58	2.68	23.11	292.58
	構成比	%	—	23.7	1.3	—	0.7	64.0	0.2	1.2	0.9	7.9	100.0
更別村	面積	km ²	—	122.19	3.29	—	—	11.07	3.37	4.65	2.99	29.34	176.90
	構成比	%	—	69.1	1.9	—	—	6.3	1.9	2.6	1.7	16.6	100.0
大樹町	面積	km ²	—	129.68	3.28	—	—	71.31	6.95	12.04	3.88	588.55	815.68
	構成比	%	—	15.9	0.4	—	—	8.7	0.9	1.5	0.5	72.2	100.0
広尾町	面積	km ²	—	62.16	4.26	—	—	105.32	8.52	27.71	3.71	384.85	596.54
	構成比	%	—	10.4	0.7	—	—	17.7	1.4	4.6	0.6	64.5	100.0
幕別町	面積	km ²	1.61	223.95	10.55	0.00	0.04	85.46	13.41	28.84	11.01	102.78	477.64
	構成比	%	0.3	46.9	2.2	0.0	0.0	17.9	2.8	6.0	2.3	21.5	100.0
池田町	面積	km ²	13.71	63.03	4.39	—	0.04	173.64	55.62	4.85	18.09	38.41	371.79
	構成比	%	3.7	17.0	1.2	—	0.0	46.7	15.0	1.3	4.9	10.3	100.0
豊頃町	面積	km ²	—	108.82	3.32	—	0.00	256.99	6.49	44.37	10.50	106.22	536.71
	構成比	%	—	20.3	0.6	—	0.0	47.9	1.2	8.3	2.0	19.8	100.0
本別町	面積	km ²	—	109.41	4.77	0.00	0.04	208.61	5.18	2.62	6.62	54.67	391.91
	構成比	%	—	27.9	1.2	0.0	0.0	53.2	1.3	0.7	1.7	13.9	100.0
足寄町	面積	km ²	—	121.11	6.60	0.00	3.30	1088.80	21.66	31.84	7.24	127.49	1408.04
	構成比	%	—	8.6	0.5	0.0	0.2	77.3	1.5	2.3	0.5	9.1	100.0
陸別町	面積	km ²	—	51.85	2.29	—	—	491.69	14.19	20.86	9.60	18.42	608.90
	構成比	%	—	8.5	0.4	—	—	80.8	2.3	3.4	1.6	3.0	100.0
浦幌町	面積	km ²	—	104.26	5.21	0.00	—	479.72	14.68	4.63	7.26	114.09	729.85
	構成比	%	—	14.3	0.7	0.0	—	65.7	2.0	0.6	1.0	15.6	100.0
合 計	面積	km ²	20.53	2414.57	148.81	0.00	18.40	4568.72	287.65	283.27	183.12	2906.41	10831.50
	構成比	%	0.2	22.3	1.4	0.0	0.2	42.2	2.7	2.6	1.7	26.8	100.0

注 1) 1月1日の値である。

2) 構成比は出典のデータを基に作成した。

3) 構成比は少数第二位を四捨五入した数値を記載しているため、表中の数値を合計しても100.0とならない。

出典)「第129回(令和4年)北海道統計書」(北海道総合政策部情報統計局、令和4年3月)

2.1.2 人口

各市町村における人口及び世帯数を表 2.1.2 に示す。全体の人口約 33.5 万人のうち帯広市の人口が約 49%を占めており、次いで音更町、幕別町、芽室町の順となっている。また人口の推移をみると、上士幌町を除く全ての市町村で減少傾向にある。

表 2.1.2 十勝圏複合事務組合を構成する市町村の人口及び世帯数

	平成29年		令和3年		増減率(R3/H29)	
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口 (%)	世帯数 (%)
帯広市	168,096	86,534	165,670	89,041	-1.44%	2.90%
音更町	45,238	20,063	44,045	20,522	-2.64%	2.29%
士幌町	6,236	2,697	6,027	2,757	-3.35%	2.22%
上士幌町	4,917	2,439	4,964	2,597	0.96%	6.48%
鹿追町	5,559	2,508	5,247	2,467	-5.61%	-1.63%
新得町	6,309	3,414	5,835	3,228	-7.51%	-5.45%
清水町	9,741	4,687	9,305	4,731	-4.48%	0.94%
芽室町	18,918	7,874	18,326	7,980	-3.13%	1.35%
中札内村	3,977	1,839	3,922	1,905	-1.38%	3.59%
更別村	3,266	1,310	3,151	1,332	-3.52%	1.68%
大樹町	5,737	2,677	5,451	2,724	-4.99%	1.76%
広尾町	7,179	3,455	6,547	3,290	-8.80%	-4.78%
幕別町	27,269	12,286	26,443	12,545	-3.03%	2.11%
池田町	6,996	3,416	6,440	3,313	-7.95%	-3.02%
豊頃町	3,240	1,484	3,088	1,466	-4.69%	-1.21%
本別町	7,406	3,708	6,733	3,588	-9.09%	-3.24%
足寄町	7,139	3,536	6,684	3,460	-6.37%	-2.15%
陸別町	2,500	1,350	2,314	1,301	-7.44%	-3.63%
浦幌町	4,997	2,327	4,544	2,242	-9.07%	-3.65%
合 計	344,720	167,604	334,736	170,489	-2.90%	1.72%

注) 各年とも1月1日の値である。

出典)「住民基本台帳年報」(北海道総合政策部地域行政局市町村課)

2.1.3 産業

「平成 28 年経済センサス」による各市町村の産業大分類別従業者数をみると、全体では「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「医療、福祉」、「製造業」の順となっている。

なお、帯広市では「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっている。

表 2.1.3 十勝圏複合事務組合を構成する市町村の産業大分類別従業者数（1/2）

			農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業
帯広市	従業者数	人	739	27	6,908	5,331	277	623	4,385	18,833	2,405
	構成比	%	0.9	0.0	8.8	6.8	0.4	0.8	5.6	24.0	3.1
音更町	従業者数	人	569	34	1,362	1,603	54	17	677	2,699	128
	構成比	%	4.2	0.2	10.0	11.8	0.4	0.1	5.0	19.8	0.9
士幌町	従業者数	人	394	—	203	683	3	—	176	201	8
	構成比	%	16.3	—	8.4	28.3	0.1	—	7.3	8.3	0.3
上士幌町	従業者数	人	468	17	234	117	34	—	57	308	37
	構成比	%	23.0	0.8	11.5	5.7	1.7	—	2.8	15.1	1.8
鹿追町	従業者数	人	339	6	145	38	—	—	106	219	8
	構成比	%	20.9	0.4	8.9	2.3	—	—	6.5	13.5	0.5
新得町	従業者数	人	384	—	179	196	41	2	101	332	15
	構成比	%	14.6	—	6.8	7.5	1.6	0.1	3.9	12.7	0.6
清水町	従業者数	人	477	—	337	680	—	2	204	615	57
	構成比	%	12.5	—	8.9	17.9	—	0.1	5.4	16.2	1.5
芽室町	従業者数	人	645	12	571	1,359	—	2	1,745	1,764	40
	構成比	%	7.5	0.1	6.7	15.9	—	0.0	20.4	20.6	0.5
中札内村	従業者数	人	402	3	81	858	8	—	86	234	7
	構成比	%	18.8	0.1	3.8	40.1	0.4	—	4.0	10.9	0.3
更別村	従業者数	人	157	—	97	140	12	—	141	158	—
	構成比	%	11.1	—	6.9	9.9	0.8	—	10.0	11.2	—
大樹町	従業者数	人	376	9	242	417	10	—	87	482	54
	構成比	%	15.9	0.4	10.2	17.7	0.4	—	3.7	20.4	2.3
広尾町	従業者数	人	249	—	318	409	—	4	250	498	53
	構成比	%	10.4	—	13.3	17.1	—	0.2	10.4	20.8	2.2
幕別町	従業者数	人	665	—	906	1,118	12	12	364	1,662	69
	構成比	%	8.4	—	11.4	14.1	0.2	0.2	4.6	21.0	0.9
池田町	従業者数	人	91	—	223	345	14	5	75	484	18
	構成比	%	4.2	—	10.2	15.8	0.6	0.2	3.4	22.2	0.8
豊頃町	従業者数	人	216	—	142	33	4	—	60	177	24
	構成比	%	21.4	—	14.1	3.3	0.4	—	5.9	17.5	2.4
本別町	従業者数	人	167	26	365	233	—	11	225	521	32
	構成比	%	6.8	1.1	14.9	9.5	—	0.4	9.2	21.2	1.3
足寄町	従業者数	人	172	16	296	203	22	—	91	526	53
	構成比	%	7.8	0.7	13.5	9.2	1.0	—	4.1	23.9	2.4
陸別町	従業者数	人	191	—	123	81	—	—	10	109	17
	構成比	%	20.1	—	13.0	8.5	—	—	1.1	11.5	1.8
浦幌町	従業者数	人	251	—	178	234	—	—	61	278	12
	構成比	%	14.7	—	10.4	13.7	—	—	3.6	16.3	0.7
合 計	従業者数	人	6,952	150	12,910	14,078	491	678	8,901	30,100	3,037
	構成比	%	5.0	0.1	9.2	10.1	0.4	0.5	6.4	21.5	2.2

表 2.1.3 十勝圏複合事務組合を構成する市町村の産業大分類別従業者数 (2/2)

			不動産業, 物品賃貸業	学術研究, 専門・技術 サービス業	宿泊業, 飲 食サービス 業	生活関連 サービス業, 娯楽業	教育, 学習 支援業	医療, 福祉	複合サービ ス事業	サービス業 (他に分類さ れないもの)	合 計
帯広市	従業者数	人	1,827	2,297	9,244	3,528	1,551	13,303	426	6,872	78,576
	構成比	%	2.3	2.9	11.8	4.5	2.0	16.9	0.5	8.7	100.0
音更町	従業者数	人	127	304	1,520	665	234	2,089	252	1,291	13,625
	構成比	%	0.9	2.2	11.2	4.9	1.7	15.3	1.8	9.5	100.0
士幌町	従業者数	人	14	39	107	29	1	162	123	269	2,412
	構成比	%	0.6	1.6	4.4	1.2	0.0	6.7	5.1	11.2	100.0
上士幌町	従業者数	人	6	148	151	63	9	188	80	122	2,039
	構成比	%	0.3	7.3	7.4	3.1	0.4	9.2	3.9	6.0	100.0
鹿追町	従業者数	人	8	26	225	74	17	203	104	105	1,623
	構成比	%	0.5	1.6	13.9	4.6	1.0	12.5	6.4	6.5	100.0
新得町	従業者数	人	12	131	377	100	27	416	88	222	2,623
	構成比	%	0.5	5.0	14.4	3.8	1.0	15.9	3.4	8.5	100.0
清水町	従業者数	人	37	41	223	154	13	638	114	213	3,805
	構成比	%	1.0	1.1	5.9	4.0	0.3	16.8	3.0	5.6	100.0
芽室町	従業者数	人	188	244	369	264	215	449	233	447	8,547
	構成比	%	2.2	2.9	4.3	3.1	2.5	5.3	2.7	5.2	100.0
中札内村	従業者数	人	16	10	91	13	7	178	50	96	2,140
	構成比	%	0.7	0.5	4.3	0.6	0.3	8.3	2.3	4.5	100.0
更別村	従業者数	人	2	29	54	16	6	348	182	70	1,412
	構成比	%	0.1	2.1	3.8	1.1	0.4	24.6	12.9	5.0	100.0
大樹町	従業者数	人	17	51	117	99	5	199	95	101	2,361
	構成比	%	0.7	2.2	5.0	4.2	0.2	8.4	4.0	4.3	100.0
広尾町	従業者数	人	20	24	174	66	10	131	64	124	2,394
	構成比	%	0.8	1.0	7.3	2.8	0.4	5.5	2.7	5.2	100.0
幕別町	従業者数	人	118	118	578	419	131	1,167	136	441	7,916
	構成比	%	1.5	1.5	7.3	5.3	1.7	14.7	1.7	5.6	100.0
池田町	従業者数	人	19	27	142	79	22	393	53	193	2,183
	構成比	%	0.9	1.2	6.5	3.6	1.0	18.0	2.4	8.8	100.0
豊頃町	従業者数	人	2	34	51	15	1	108	88	55	1,010
	構成比	%	0.2	3.4	5.0	1.5	0.1	10.7	8.7	5.4	100.0
本別町	従業者数	人	23	64	154	92	20	239	123	160	2,455
	構成比	%	0.9	2.6	6.3	3.7	0.8	9.7	5.0	6.5	100.0
足寄町	従業者数	人	47	66	157	79	16	188	77	189	2,198
	構成比	%	2.1	3.0	7.1	3.6	0.7	8.6	3.5	8.6	100.0
陸別町	従業者数	人	12	11	68	10	2	162	56	96	948
	構成比	%	1.3	1.2	7.2	1.1	0.2	17.1	5.9	10.1	100.0
浦幌町	従業者数	人	23	22	72	89	7	160	152	167	1,706
	構成比	%	1.3	1.3	4.2	5.2	0.4	9.4	8.9	9.8	100.0
合 計	従業者数	人	2,518	3,686	13,874	5,854	2,294	20,721	2,496	11,233	139,973
	構成比	%	1.8	2.6	9.9	4.2	1.6	14.8	1.8	8.0	100.0

注 1) 構成比は出典のデータを基に作成した。

2) 構成比は少数第二位を四捨五入した数値を記載しているため、表中の数値を合計しても 100.0 とならない。

出典)「平成 28 年経済センサス-活動調査」(総務省統計局)

2.2 建設地及びその周囲の概況

建設地及びその周辺の概況を把握する地域は、十勝圏複合事務組合を構成する 19 市町村のうち表 2.2.1 に示した帯広市・音更町・芽室町の 3 市町とする。

表 2.2.1 建設地及びその周辺の概況を把握する地域

地 域
帯広市・音更町・芽室町

2.2.1 自然的状況

(1) 地上気象

建設地に最も近い気象観測所は、図 2.2.1 に示した建設地の東南約 6～7km に位置する帯広測候所である。帯広測候所における地上気象観測結果を以下に示す。

1) 気温

月別平均気温は、表 2.2.2 及び図 2.2.2 に示すとおりである。1 月が -6.9°C と最も低く、8 月が 20.3°C と最も高い。月最高気温は 4 月から 9 月にかけて 30°C 以上であり、月最低気温は 12 月から 3 月にかけて -20°C を下回る。

2) 降水量・日照時間

降水量は、表 2.2.2 及び図 2.2.2 に示すとおりである。全年の降水量は 919.7mm であり、月別にみると 8 月が最大、2 月が最小である。また、全年の日照時間は 3 月が最も多く、7 月が最も少ない。

3) 風向・風速

月別の平均風速及び最多風向は表 2.2.2 及び図 2.2.3 に示すとおりである。風速は 3～4 月が 2.7m/s と最も強く、7～8 月は 1.6m/s と最も弱い。風向は 10～4 月は西北西、5～9 月は東が多く、年間最多風向は西北西である。

(2) 高層気象

建設地に最も近い高層気象観測所は建設地の東約 105km に位置する釧路高層気象観測施設である。図 2.2.4 に示す、釧路高層気象観測施設の高層気象観測結果（2021 年の 9 時と 21 時における月平均値）によると、1 月と 12 月において、低高度（100m 付近）で逆転層が発生している傾向がある。その他の月でも逆転層の発生は見られるが、寒候期と比較すると発生高度が高くなる傾向がある。

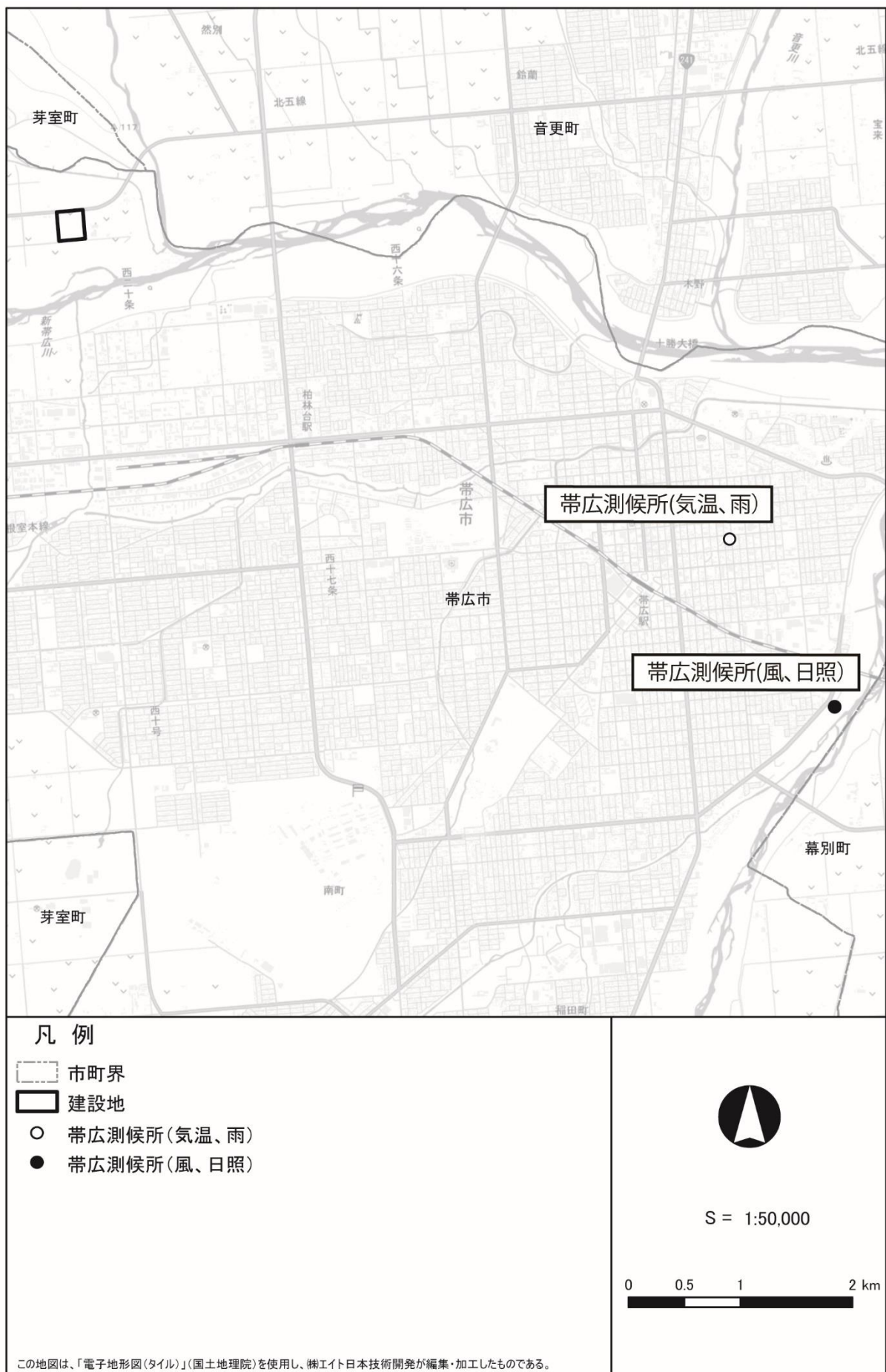


図 2.2.1 測候所位置図

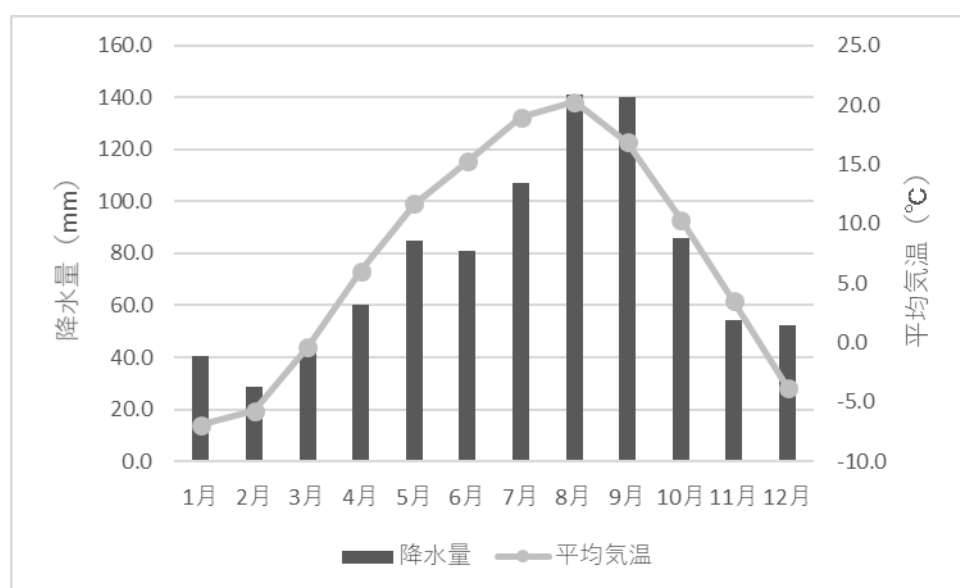
表 2.2.2 帯広測候所の気象状況（平年値）

項目 月	気温			降水量 mm	日照時間 時間	平均風速 m/s	最多風向
	平均	最高	最低				
	℃	℃	℃				
1月	-6.9	6.3	-26.7	40.5	188.2	2.4	西北西
2月	-5.7	10.8	-24.5	28.8	191.5	2.5	西北西
3月	-0.4	17.7	-20.1	43.8	217.9	2.7	西北西
4月	6.0	31.7	-7.9	60.1	192.9	2.7	西北西
5月	11.6	38.8	-3.6	84.7	188.8	2.3	東
6月	15.2	36.0	1.8	81.1	148.2	1.9	東
7月	18.9	37.1	7.5	107.1	121.9	1.6	東
8月	20.3	37.0	7.9	141.3	125.2	1.6	東
9月	16.9	34.4	2.4	140.2	137.8	1.8	東
10月	10.3	27.6	-3.8	85.7	167.6	2.1	西北西
11月	3.5	20.5	-11.5	54.2	168.2	2.5	西北西
12月	-3.8	10.7	-20.9	52.3	172.0	2.5	西北西
全年	7.2	38.8	-26.7	919.7	2020.1	2.2	西北西

注 1) 統計期間は平成 3 年～令和 2 年である。

2) 最高気温及び最低気温は極値である。

出典)「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)



注) 統計期間は平成 3 年～令和 2 年である。

出典)「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)

図 2.2.2 帯広測候所の気象状況（平均気温、降水量）

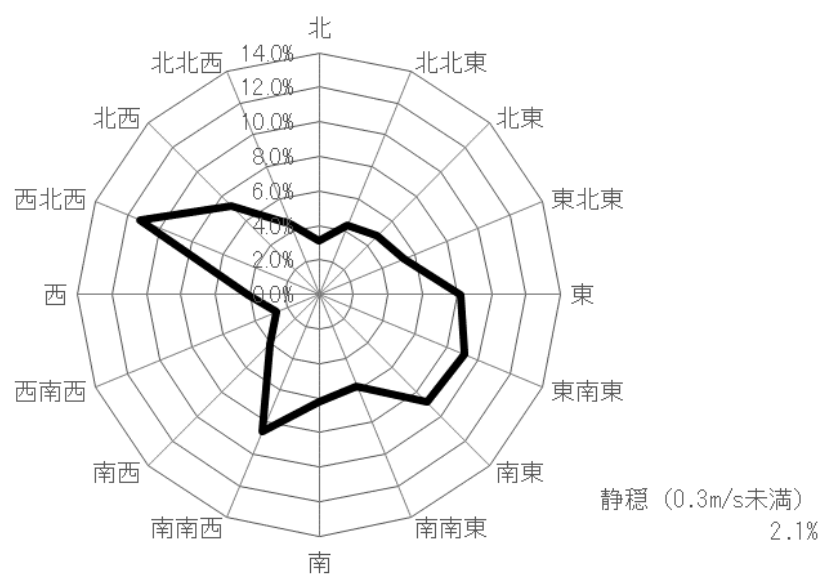
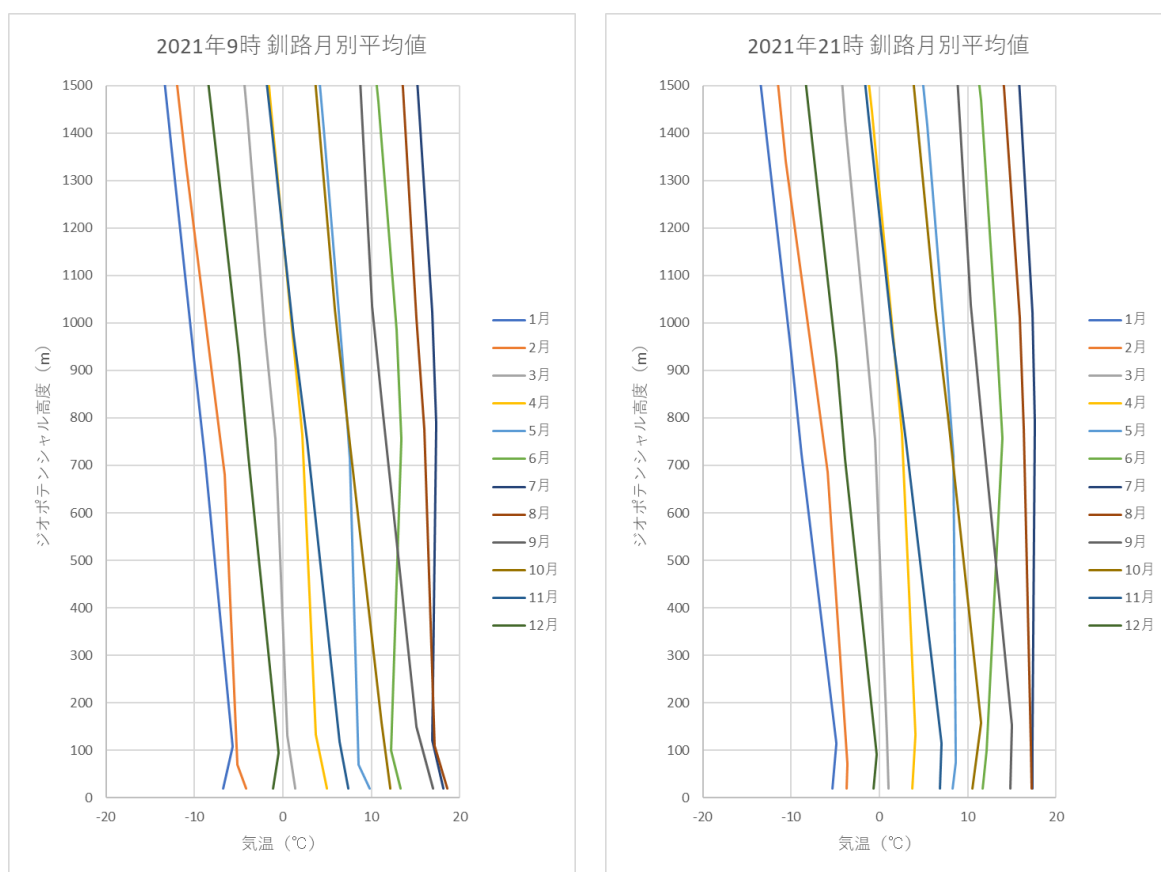


図 2.2.3 帯広測候所の年間風配図（令和2年）



出典）「過去の気象データ検索（高層）」（気象庁ホームページ）

図 2.2.4 釧路高層気象観測施設の高層気象観測結果

(3) 大気質

1) 常時監視

「環境省大気汚染物質広域監視システム（そらまめ君）」、「北海道環境白書’21」（北海道環境局環境政策課、令和4年1月）によると、建設地及び十勝圏では大気質の常時監視は行われていない。

2) 窒素酸化物

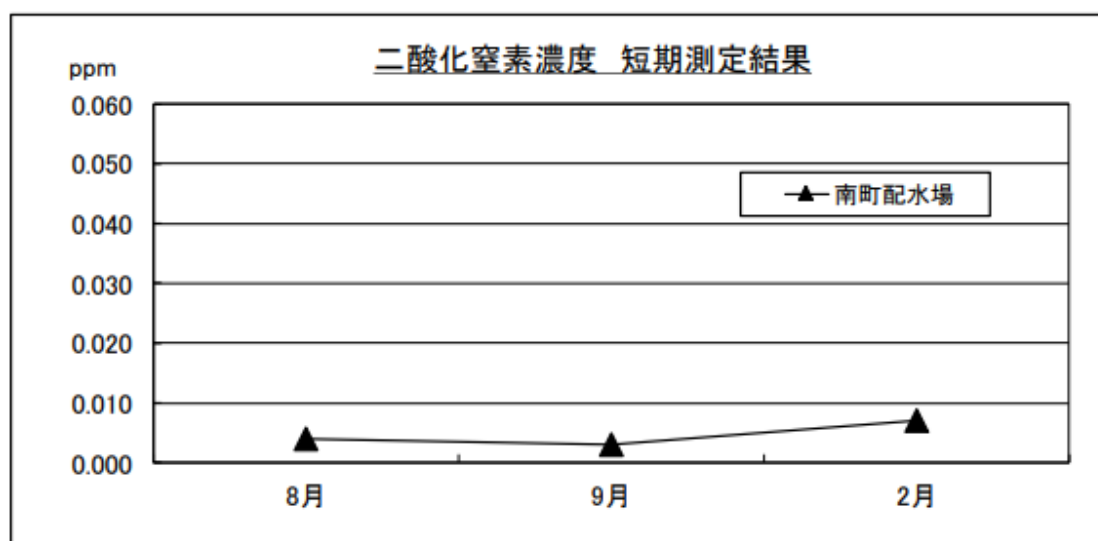
「帯広市環境白書」（帯広市、令和3年版）に基づく、建設地及びその周辺における大気環境中の窒素酸化物の調査結果を表 2.2.3 及び図 2.2.5、調査地点を図 2.2.6 に示す。

南町の二酸化窒素測定結果は環境基準を満足していた。

表 2.2.3 窒素酸化物調査結果

調査地点	項目	単位	6 月	8 月	2 月
南町配水場	有効測定日数	日	7	7	7
	測定時間	時間	168	168	168
	一酸化窒素 (NO)	平均値	ppm	0.006	0.004
		1 時間値の最高値	ppm	0.017	0.019
		日平均値の最高値	ppm	0.008	0.006
	二酸化窒素 (NO ₂)	平均値	ppm	0.004	0.003
		1 時間値の最高値	ppm	0.011	0.011
		日平均値の最高値	ppm	0.005	0.005
	窒素酸化物 (NO _x)	平均値	ppm	0.010	0.007
		1 時間値の最高値	ppm	0.026	0.027
		日平均値の最高値	ppm	0.014	0.010

出典)「帯広市環境白書（令和3年度版）」（帯広市）



出典)「帯広市環境白書（令和3年度版）」（帯広市）

図 2.2.5 二酸化窒素調査結果

3) 微小粒子状物質

「帯広市環境白書」（帯広市、令和 3 年版）に基づく、建設地及びその周辺における大気環境中の微小粒子状物質（PM2.5）調査結果を表 2.2.4～表 2.2.5、調査地点を図 2.2.6 に示す。帯広市役所の測定結果は環境基準を満足していた。

表 2.2.4 微小粒子状物質調査結果

調査地点	有効測定 日数	測定時間	年平均値	日平均値の 最高値	日平均値の 年間 98% 値	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超 過の日数
単位	日	時間	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日数
帯広市役所	362	8,666	5.1	33.0	17.0	0

出典）「帯広市環境白書（令和 3 年度版）」（帯広市）

表 2.2.5 微小粒子状物質調査結果（経年変化）

調査 地点	項目	単位	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度
帯広 市役所	有効測定日数	日	162	361	361	361	362
	年平均値	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	10.1	7.1	5.6	5.7	4.6
	日平均値の年間 98% 値	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	30.7	21.0	19.0	18.0	16.0
	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過の日数	日	3	0	1	0	0
	日平均値 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過割合	%	1.9	0.0	0.3	0.0	0.0

出典）「帯広市環境白書（令和 3 年度版）」（帯広市）



凡 例

- 市町界
- 建設予定地
- 窒素酸化物調査地点
- 微小粒子状物質調査地点



S = 1:50,000

0 0.5 1 2 km

この地図は、「電子地形図(タイル)」(国土地理院)を使用し、(株)エイト日本技術開発が編集・加工したものである。

図 2.2.6 窒素酸化物及び微小粒子状物質調査地点

(4) 騒音

「令和元年度自動車騒音常時監視結果」（帯広市ホームページ）に基づく、建設地及びその周辺における自動車騒音の調査結果を表 2.2.6、調査地点を図 2.2.7 に示す。

一般国道 38 号及び市道栄通では昼間・夜間とも環境基準を達成していたが、帯広新得線においては一部で環境基準を超過していた。

表 2.2.6 自動車騒音に係る環境基準の達成状況の評価（面的評価）結果

番号	路線名	評価区間 始点住所	評価区間 終点住所	評価 区間 延長 (km)	評価結果				
					評価対 象住居 等戸数	昼・夜 とも 基準値 以下	昼のみ 基準値 以下	夜のみ 基準値 以下	昼・夜 とも 基準値 超過
1	一般国道 38 号	西 24 条南 1 丁目	西 24 条南 1 丁目	0.6	0	0	0	0	0
2	帯広新得 線	西 12 条北	西 12 条北	1.1	365	360	0	1	7
3	市道栄通	西 20 条南 5 丁目 31	西 12 条南	2.3	362	362	0	0	0

注 1) 番号は図 2.2.5 に対応する。

2) 番号 1 及び 3 の環境基準値：昼間 70dB 以下、夜間 65dB 以下、番号 2 の環境基準値：昼間 65dB 以下、夜間 60dB 以下

出典)「自動車騒音常時監視について」（帯広市ホームページ）

(5) 振動

「騒音・振動の状況」（北海道環境生活部ホームページ）及び帯広市ホームページによると、建設地及びその周辺では振動調査は行われていない。

(6) 悪臭

「帯広市環境白書」（帯広市、令和 3 年版）によると、帯広市では悪臭防止法に基づき工場・事業場の敷地境界において、悪臭物質による汚染状況を把握するため濃度測定調査を行っている。

悪臭防止法による規制基準の設定された特定悪臭物質のうちアンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、トリメチルアミン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸の 8 物質について、令和 2 年度に規制区域内の 4 事業場において調査を実施した結果、すべて規制基準内であった。

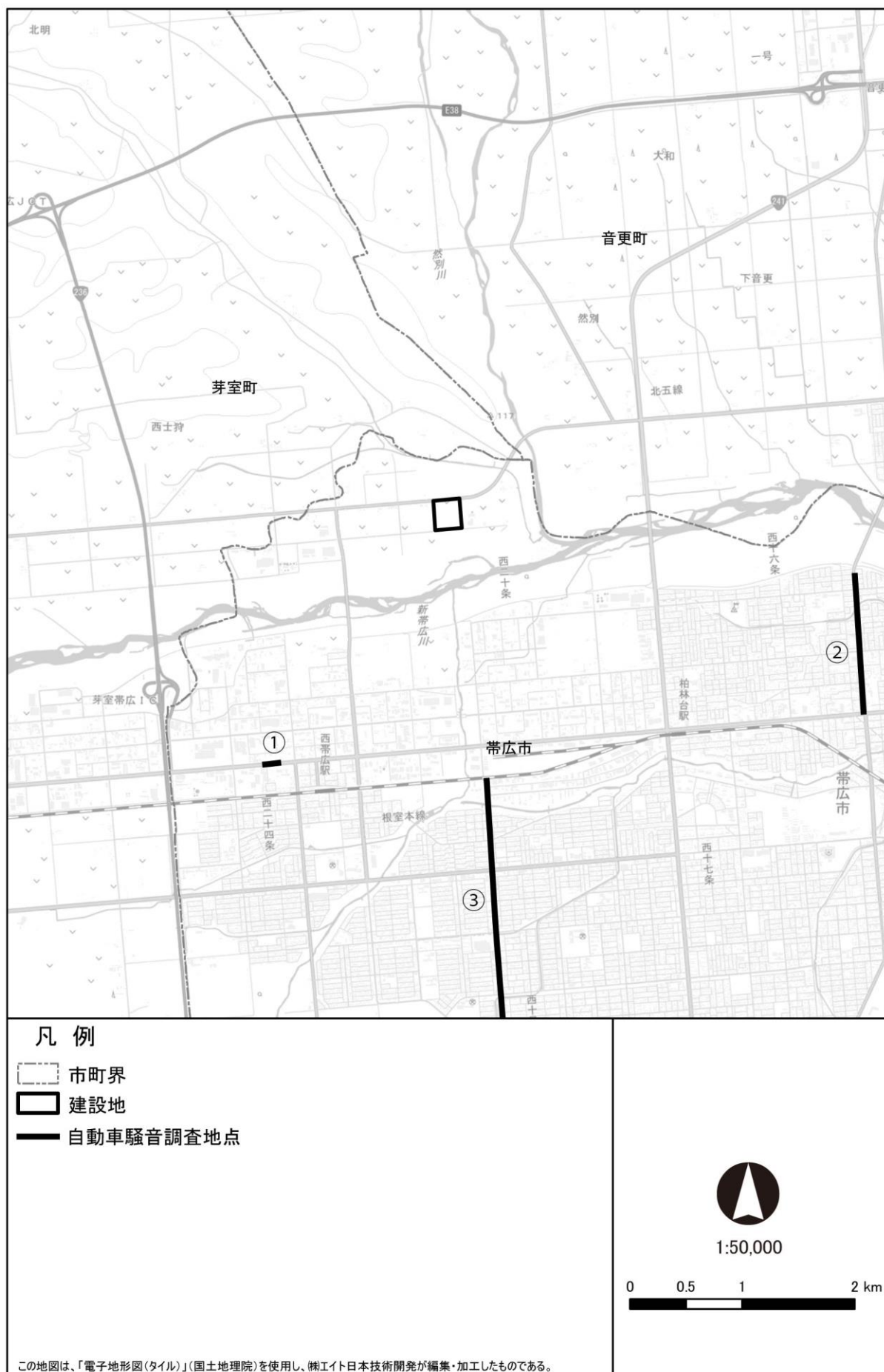


図 2.2.7 自動車騒音常時監視調査地点位置図

(7) 水象の状況

1) 水象（河川、海域）

図 2.2.8 に示すとおり、建設地の南側に十勝川、北側にシブサラビバウシ川、東側に然別川が流れている。シブサラビバウシ川は、建設地の東側で及びその周辺の河川は十勝川に流入し、十勝川は東方向に向かって流れ太平洋に流出する。

2) 水質

「令和元年度公共用水域の水質測定結果」（北海道、令和 2 年 12 月）に基づく、然別川の国見橋における水質の調査結果を表 2.2.7 に、調査地点を図 2.2.8 に示す。

大腸菌群数が 4 回の調査のうち 1 回環境基準を上回った。その他の項目については、環境基準を満足していた。

表 2.2.7 水質の調査結果（国見橋 令和 2 年度）

項目		単位	調査結果				環境基準
採取日		—	4/27	8/13	11/17	2/25	—
生活環境 項目	pH	—	7.7	8.0	7.8	7.5	6.5 以上 8.5 以下
	DO	mg/L	13	9.3	13	13	7.5 以上
	BOD	mg/L	1.0	0.9	<0.5	0.5	2 以下
	SS	mg/L	11	5	6	5	25 以下
	大腸菌群数	MPN/100mL	490	13000	130	22	1000 以下
全窒素全磷	全窒素	mg/L	2.7	—	1.2	—	—
	全磷	mg/L	0.056	—	0.015	—	—
健康項目	1,3-ジクロロプロペン	mg/L		<0.0002			0.002 以下
	チウラム	mg/L		<0.0006			0.006 以下
	シマジン	mg/L		<0.0003			0.003 以下
	チオベンカルブ	mg/L		<0.002			0.02 以下
	硝酸性窒素	mg/L	2.2		1.1		10 以下
	亜硝酸性窒素	mg/L	0.024		<0.005		10 以下
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	2.2		1.1		10 以下

注 1) 本調査地点における環境基準の類型指定は、河川 A 類型である。

2) 太字は環境基準を超過した値を示す。

3) <は定量下限値未満を示す。

出典)「令和 2 年度公共用水域の水質測定結果」（北海道、令和 3 年 12 月）



図 2.2.8 水象及び水質調査地点

3) 地下水

地下水の水質調査結果を表 2.2.8 に示す。

帯広市では調査した 3 本の井戸のうち 1 本でテトラクロロエチレン (PCE) の環境基準値の超過が見られた。また、音更町では調査した 4 本の井戸のうち 2 本で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (NO₃-N 等) の環境基準値の超過が見られた。なお、芽室町では環境基準値を超過した井戸はなかった。

表 2.2.8 地下水の水質調査結果

市町村	調査井戸数	環境基準値を超過した井戸	
		井戸数	超過項目
帯広市	3	1	PCE
音更町	4	2	NO ₃ -N 等
芽室町	1	0	—

出典)「令和 2 年度 地下水の水質測定結果」(北海道、令和 3 年 12 月)

4) 底質

底質の調査結果を表 2.2.9、調査地点を図 2.2.9 に示す。

調査の結果は、水銀の暫定除去基準を満足していた。

表 2.2.9 底質調査結果 (十勝大橋)

項目	単位	調査結果	環境基準または 暫定除去基準
水銀	mg/kg	0.03	25

出典)「国土交通省 水文水質データベース」(北海道、調査時期：平成 9 年 12 月)

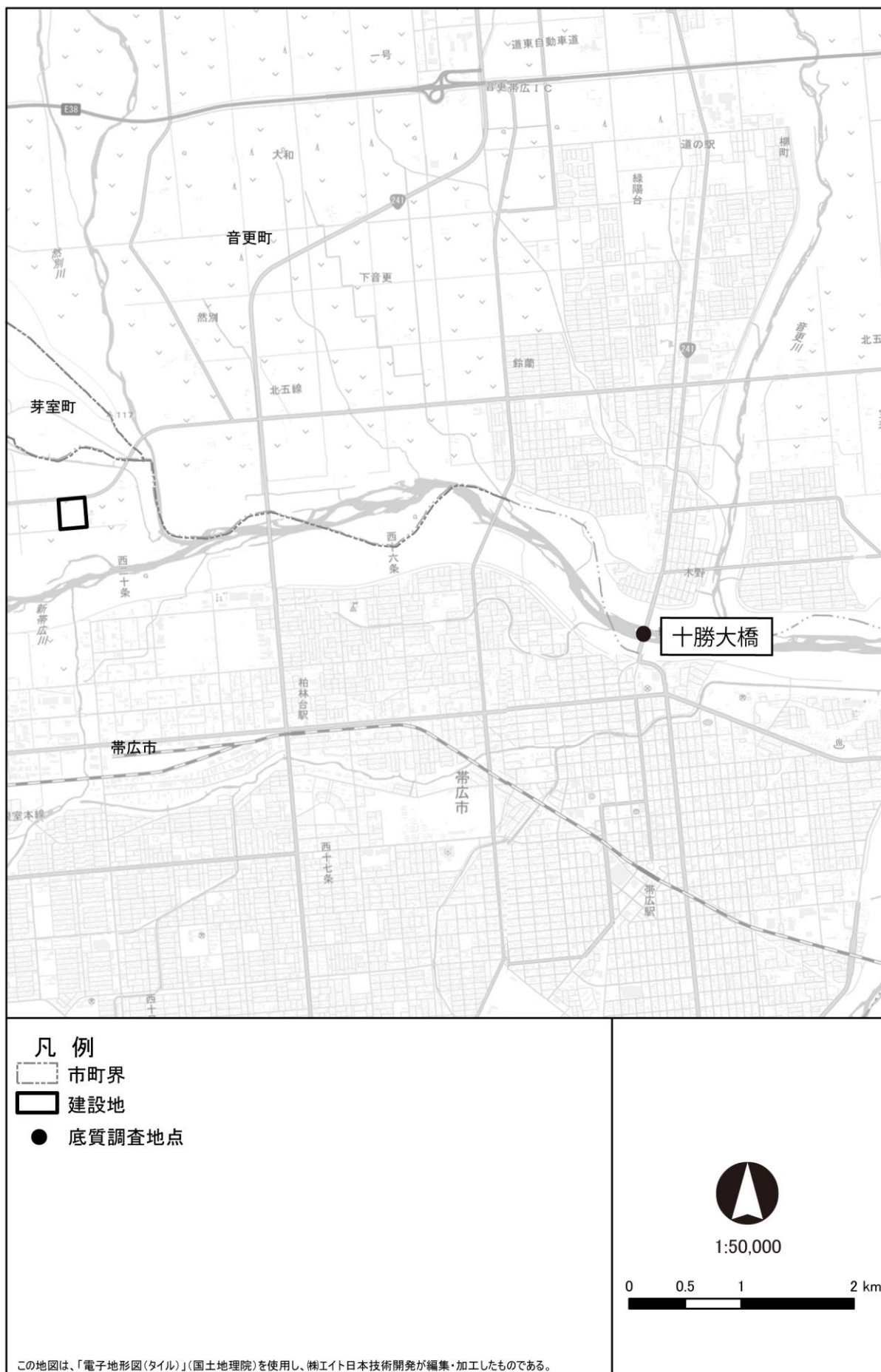


図 2.2.9 底質調査地点

(8) 土壌及び地盤環境

1) 土壌

「1/200,000 土地分類基本調査（土壌図）北海道」によると、建設地及びその周辺における土壌は図 2.2.10 に示すとおりである。建設地は粗粒褐色低地土壌に位置している。

2) 地形

「1/200,000 土地分類基本調査（地形分類図）北海道」によると、建設地及びその周辺における地形は図 2.2.11 に示すとおりである。建設地は扇状地性低地に位置している。

3) 地質

「1/200,000 土地分類基本調査（表層地質図）北海道」によると、建設地及びその周辺における地層地質は図 2.2.12 に示すとおりである。建設地は礫・砂・粘土に位置している。

① 重要な地形・地質

「日本の地形レッドデータブック 第1集」（小泉武栄・青木賢人、平成12年12月）、「日本の地形レッドデータブック 第2集」（小泉武栄・青木賢人、平成14年3月）によると、建設地及びその周辺には重要な地形・地質は分布していない。

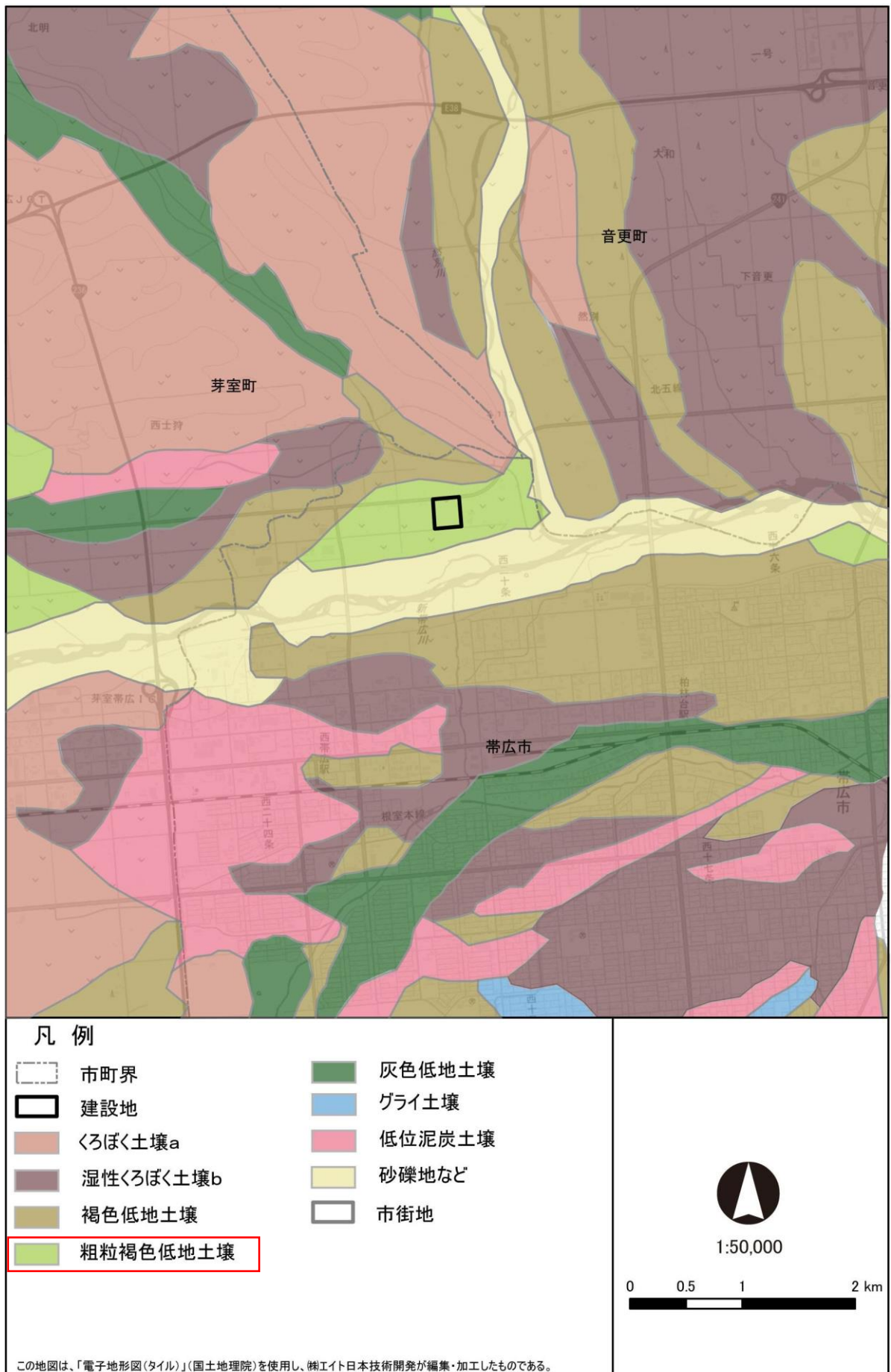


図 2.2.10 建設地周辺の土壌図

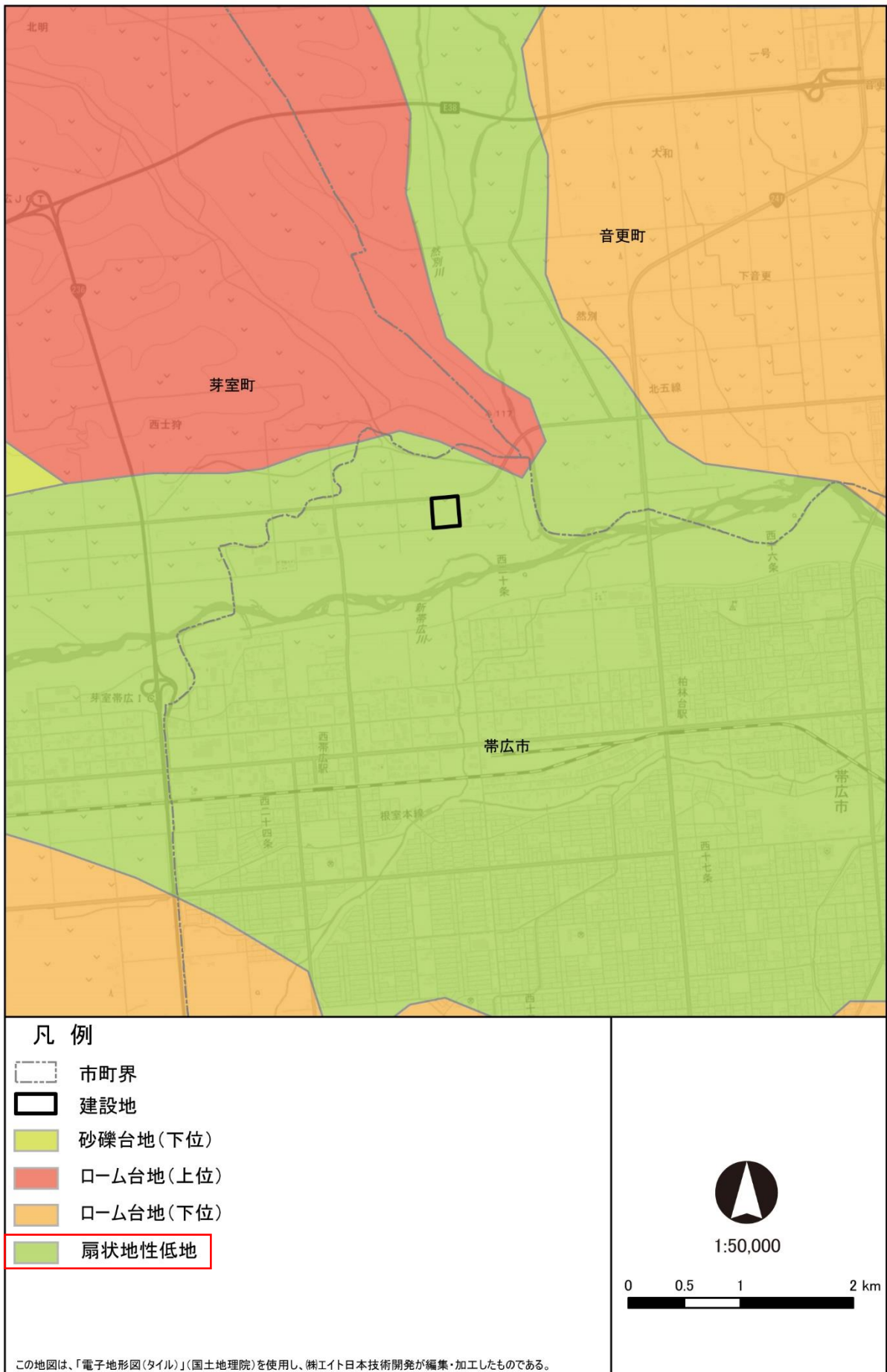


図 2.2.11 建設地周辺の地形分類図

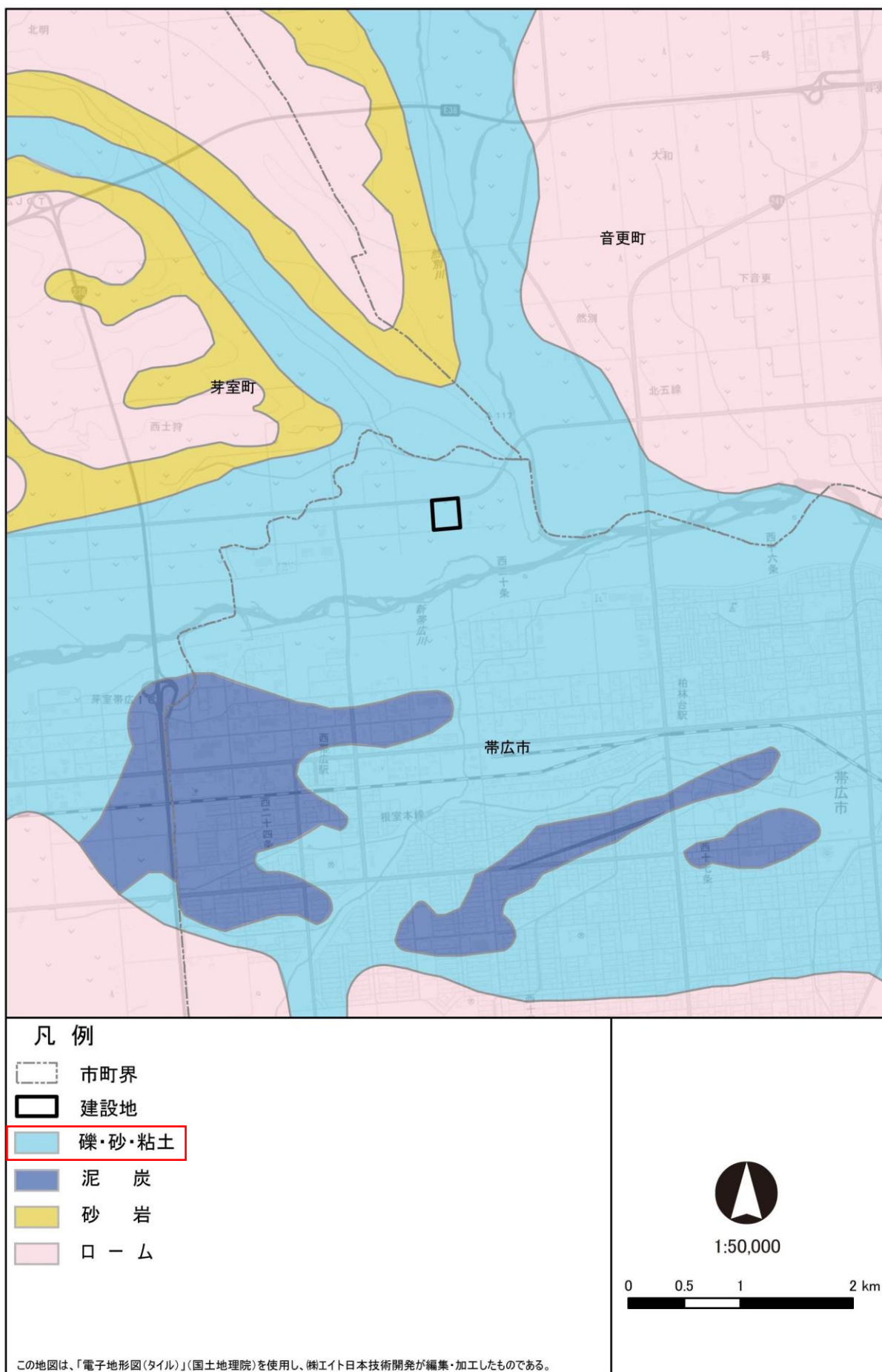


図 2.2.12 建設地周辺の表層地質図

(9) 植物、動物及び生態系

1) 植物

① 植生

「第3回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（環境庁、昭和58年度～61年度）における建設地及び周辺の現存植生図を図2.2.13に示す。

建設地は畑地に位置しており、その周辺は、ヤナギ低木群落、種々草原、造成地などとなっている。

② 重要種

「北海道の希少野生生物－北海道レッドデータブック2001－」（北海道、平成13年）において、帯広市・音更町・芽室町の3市町内で生育が確認された植物の重要種を表2.2.10に示す。

3市町内で確認された重要種は63種であった。

表2.2.10 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（植物）（1/2）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要区分			
					①	②	③	④
ヒカゲノカズラ科	コスギラン	○		○	R			
イワヒバ科	コケスギラン	○		○	R			
トクサ科	ヤチスギナ	○			VU	VU		
ヒノキ科	ミヤマビャクシン	○			VU			
	リシリビャクシン	○		○	EN	VU		
ウマノスズクサ科	オクエゾサイシン	○			R			
ユリ科	ウラゲコバイケイ	○			R			
	ホトトギス	○			R			
イグサ科	エゾノミクリゼキシウ	○		○	R	EN		
カヤツリグサ科	アカンカサスゲ	○	○		R			
	オタルスゲ	○			R			
	タカネシバスゲ	○		○	R	EN		
	ヒメアゼスゲ	○		○	R	VU		
イネ科	エゾミヤマソモソモ	○		○	R			
	ミヤマアワガエリ	○		○	R			
ケシ科	エゾオオケマン	○			CR	EN		
	コマクサ	○		○	R			
キンポウゲ科	キタミフクジュソウ	○			VU			
	クロバナハンショウヅル	○		○	R	VU		
	ツクモグサ	○		○	CR	EN		
	バイカモ		○		R			
	ヒダカトリカブト	○		○	R			
	フクジュソウ	○			VU			
シラネアオイ科	シラネアオイ	○			VU			
ボタン科	ヤマシャクヤク		○		R	NT		
マメ科	カラフトモメンヅル		○		R	EN		
	チシマゲンゲ	○			R			
	ヒダカミヤマノエンドウ	○		○	R	VU		
	モメンヅル	○	○		R			

表 2.2.10 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（植物）（2/2）

科 名	種 名	帯広市	音更町	芽室町	重 要 区 分			
					①	②	③	④
バラ科	アポイキンバイ	○		○	R			
	エゾトウウチソウ	○			R			
	キンロバイ	○		○	R	VU		
	クロミサンザシ	○			CR	EN		
	ポロシリトウウチソウ	○		○	R			
	ユウバリキンバイ	○		○	R	EN		
クロウメモドキ科	ミヤマハンモドキ	○		○	R	EN		
ヤナギ科	ケショウヤナギ	○	○	○	R			
	ヒダカミネヤナギ	○		○	VU	VU		
アブラナ科	タカネグンバイ	○		○	VU	EN		
ナデシコ科	オオイワツメクサ	○		○	R	CR		
	カムイビランジ	○		○	CR	EN		
	クシロワチガイソウ	○	○	○	VU	VU		
ミズキ科	エゾゴゼンタチバナ			○	R	NT		
ハナシノブ科	エゾハナシノブ	○			R	VU		
	カラフトハナシノブ	○			VU	EN		
サクラソウ科	エゾオオサクラソウ	○			R			
	エゾコザクラ	○		○	R			
	オオサクラソウ	○		○	R			
	カムイコザクラ	○		○	VU	EN		
	クリンソウ	○			VU			
	サクラソウモドキ	○			R	EN		
	ヒダカイワザクラ	○		○	VU	VU		
	ユキワリソウ	○			VU			
アカネ科	エゾムグラ	○			R	VU		
リンドウ科	ユウバリリンドウ	○		○	VU	EN		
ガガイモ科	エゾノクサタチバナ	○			VU	CR		
	スズサイコ		○		R	NT		
ゴマノハグサ科	ミヤマシオガマ	○		○	R			
タヌキモ科	ムシトリスミレ	○		○	R			
ハマウツボ科	オニク	○		○	R			
キク科	エゾタカネニガナ	○		○	R	VU		
	ユキバヒゴタイ	○		○	VU	VU		
スイカズラ科	ヒロハガマズミ	○		○	R	EN		
30 科	63 種	58 種	8 種	36 種	63 種	33 種	0 種	1 種

注) 【注目すべき種選定基準】

①「北海道の希少野生生物－北海道レッドデータブック 2001－」（北海道、平成 13 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、R：希少種、LP：地域個体群、N：留意種

②「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群

③「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種、生息：生息地保護区
出典)「北海道の希少野生生物－北海道レッドデータブック 2001－」（北海道、平成 13 年）

2) 特定植物群落

建設地及びその周辺における特定植物群落を表 2.2.11 及び図 2.2.14 に示す。

「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境庁自然保護局、平成 12 年）によると、建設地及びその周辺には特定植物群落として「帯広国見山」が選定されている。

表 2.2.11 建設地周辺の特定植物群落

名称	選定基準	相観区分	面積(ha)
帯広国見山	H	冷温帯夏緑広葉高木林	46.00

注) 【選定基準】

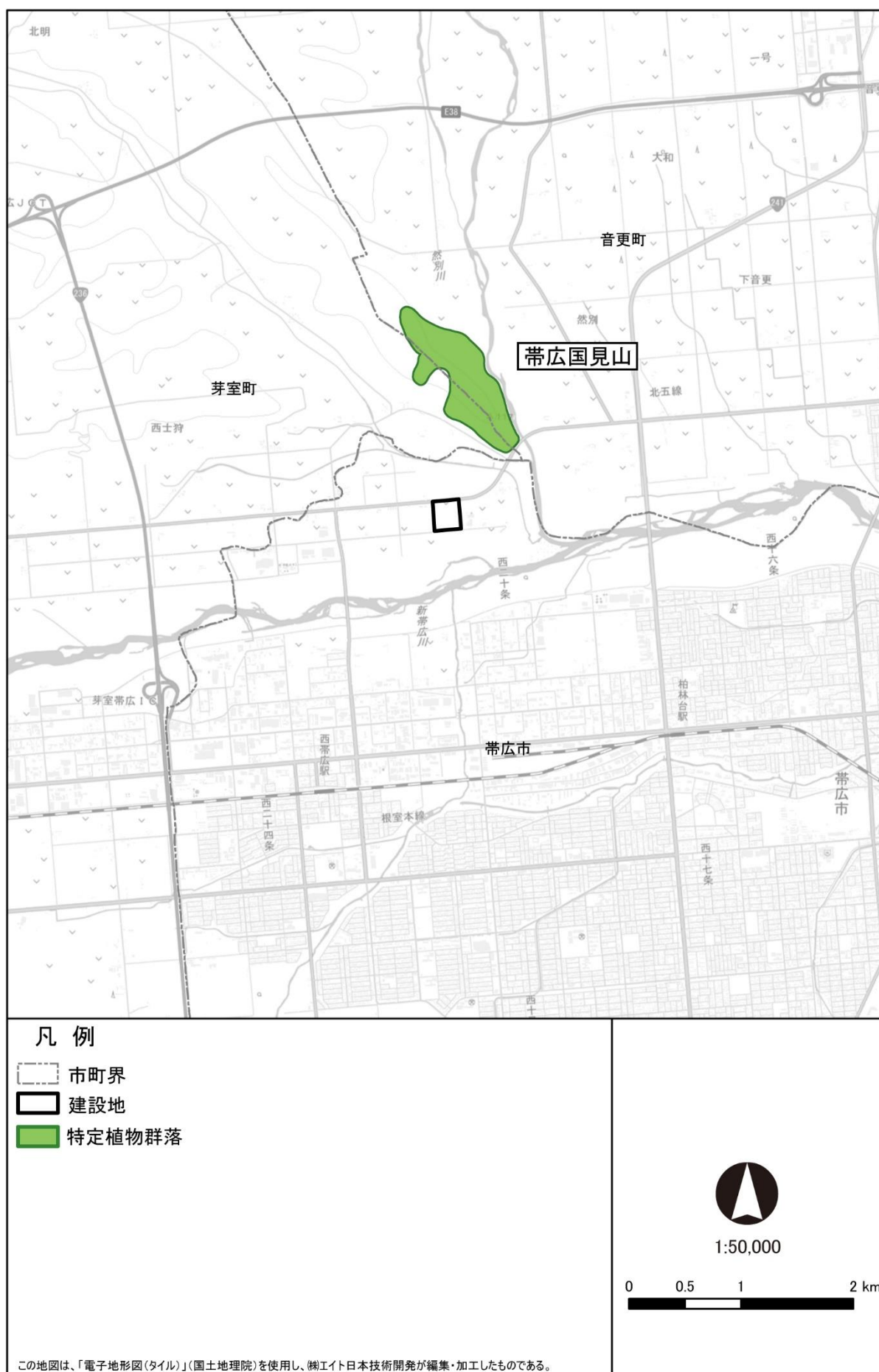
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
 - B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
 - C 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落又は個体群
 - D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
 - E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
 - F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
 - G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群
 - H その他学術上重要な植物群落又は個体群
- 出典)「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境庁自然保護局、平成 12 年）

3) 巨樹・巨木林

「第 6 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局、平成 13 年）によると、建設地及びその周辺には巨樹・巨木林は分布していない。



図 2.2.13 建設地周辺の現存植生図



4) 動物

① 動物層

「北海道環境データベース (http://edb.pref.hokkaido.lg.jp/hes_sys/index.html)」(北海道)によると、帯広市・音更町・芽室町の3市町内で、哺乳類33種、鳥類が202種、両生類が3種、爬虫類が7種、魚類が16種、昆虫類が1,455種、甲殻類が5種、貝類等が9種確認されている。

② 重要種

帯広市・音更町・芽室町の3市町内で生息が確認された動物の重要種の一覧を表2.2.12(1)～(8)に示す。

帯広市・音更町・芽室町の3市町内で生息が確認された動物の重要種として、哺乳類14種、鳥類44種、両生類3種、爬虫類2種、魚類6種、昆虫類54種、甲殻類1種、貝類3種があげられる。

表 2.2.12 (1) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・哺乳類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
イタチ科	エゾオコジョ	○		○	VU	NT		
	エゾクロテン	○	○		NT	NT		
リス科	エゾシマリス	○		○	DD	DD		
ネズミ科	カラフトアカネズミ	○	○		N			
	ムクゲネズミ	○		○	NT	NT		
ナキウサギ科	エゾナキウサギ	○		○	NT	NT		
ヒナコウモリ科	ウサギコウモリ	○	○		NT			
	カグヤコウモリ	○	○		NT			
	コテングコウモリ	○	○		N			
	ドーベントンコウモリ	○	○		N			
	ヒナコウモリ	○			NT			
	ホオヒゲコウモリ	○	○		NT	VU		
	ヒメホオヒゲコウモリ		○		NT			
	ヤマコウモリ	○	○		NT	VU		
5 科	14 種	13 種	9 種	4 種	14 種	7 種	0 種	0 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ① 「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版(2016年)」(北海道、平成28年)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類、
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、N: 留意、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- ② 「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類、
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- ③ 「文化財保護法」(昭和25年5月)
特天: 特別天然記念物、天: 天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月)
国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種、
生息: 生息地保護区

表 2.2.12 (2) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・鳥類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
キジ科	ウズラ	○	○		R	VU		
	エゾライチョウ	○	○	○	R	DD		
カモ科	オシドリ	○	○	○	R	DD		
	コハクチョウ	○	○		R			
	シノリガモ	○	○	○	R	LP		
	トモエガモ	○	○		R	VU		
	ツクシガモ		○			VU		
	ヒシクイ	○	○		R	VU	天	
	マガン	○	○		R	NT	天	
	ミコアイサ	○	○	○	VU			
クイナ科	ヒクイナ	○			R	NT		
セイタカシギ科	セイタカシギ	○		○	R	VU		
チドリ科	シロチドリ		○			VU		
シギ科	アカアシシギ	○	○		VU	VU		
	オオジシギ	○	○	○	R	NT		
	タカブシギ	○		○		VU		
	ハマシギ	○	○			NT		
ヨタカ科	ヨタカ	○			R	NT		
サギ科	チュウサギ	○			R	NT		
	オオヨシゴイ		○		R	CR		国内
タカ科	オオタカ	○	○	○	VU	NT		
	オオワシ	○	○		EN	VU	天	国内
	オジロワシ	○	○	○	EN	VU	天	国内
	クマタカ	○	○		EN	EN		国内
	ハイイロチュウヒ	○	○		R			
	ハイタカ	○	○	○	VU	NT		
	ハチクマ	○	○		R	NT		
	ケアシノスリ			○	R			
フクロウ科	トラフズク	○	○		R			
キツツキ科	オオアカゲラ	○	○	○	N	VU	天	
	クマゲラ	○	○	○	VU	VU	天	
	コアカゲラ	○	○	○	R			
カワセミ科	アカショウビン	○	○		R			
	ヤマセミ	○	○	○	R			
ハヤブサ科	シロハヤブサ	○			R			
	ハヤブサ	○	○	○	VU	VU		国内
サンショウクイ科	サンショウクイ	○				VU		
モズ科	アカモズ	○	○	○	R	EN		国内
ウグイス科	マキノセンニュウ	○	○			NT		
ツグミ科	コマドリ	○		○		VU		
ヒタキ科	ヤマガラ	○	○	○		EN		
ミソサザイ科	ミソサザイ	○	○	○		EN		
アトリ科	ギンザンマシコ	○			R			
ホオジロ科	シマアオジ	○	○		R	CR		国内
21 科	44 種	40 種	34 種	20 種	35 種	34 種	6 種	7 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ①「北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版(2017年)」(北海道、平成29年)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類、
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、N: 留意、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- ②「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類、
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- ③「文化財保護法」(昭和25年5月)
特天: 特別天然記念物、天: 天然記念物
- ④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月)
国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種、
生息: 生息地保護区

表 2.2.12 (3) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・両生類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
サンショウウオ科	エゾサンショウウオ	○	○	○	N	DD		
アマガエル科	ニホンアマガエル	○	○	○	LP			
アカガエル科	エゾアカガエル	○	○	○	LP			
3 科	3 種	3 種	3 種	3 種	3 種	1 種	0 種	0 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ① 「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版（2015 年）」（北海道、平成 27 年）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、N：留意、DD：情報不足、LP：地域個体群
- ② 「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群
- ③ 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種、
生息：生息地保護区

表 2.2.12 (4) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・爬虫類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
トカゲ科	ヒガシニホントカゲ		○		LP			
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○			LP			
2 科	2 種	1 種	1 種	0 種	2 種	0 種	0 種	0 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ① 「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版（2015 年）」（北海道、平成 27 年）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、N：留意、DD：情報不足、LP：地域個体群
- ② 「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群
- ③ 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種、
生息：生息地保護区

表 2.2.12 (5) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・魚類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
コイ科	エゾウグイ	○	○	○	N			
ドジョウ科	エゾホトケドジョウ		○		EN	EN		
サケ科	オショロコマ	○			R	VU		
	サクラマス	○	○		N	NT		
トゲウオ科	エゾトミヨ		○		R	VU		
カジカ科	ハナカジカ	○	○		N			
5 科	6 種	4 種	5 種	1 種	6 種	4 種	0 種	0 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ① 「北海道レッドリスト【魚類編】改訂版（2018 年）」（北海道、平成 30 年）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、N：留意、DD：情報不足、LP：地域個体群
- ② 「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群
- ③ 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種、
生息：生息地保護区

表 2.2.12 (6) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・昆虫類）(1/2)

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
アオイトトンボ科	オオアオイトトンボ		○		R			
イトトンボ科	カラカネイトトンボ	○			R			
	カラフトイトトンボ	○			VU	VU		
ヤンマ科	イイジマルリボシヤンマ	○			R	NT		
エゾトンボ科	ハネビロエゾトンボ	○			R	VU		
トンボ科	ナツアカネ	○	○		R			
	ヒメリスアカネ	○			R			
ツノゼミ科	マルツノゼミ	○			R			
カスミカメムシ科	ムモンナガカスミカメ	○			R			
ミズムシ科	ミズムシ	○				NT		
ヒメトビケラ科	マガリカメノコヒメトビケラ	○			R			
トビケラ科	カラフトゴマフトビケラ	○			R			
ホソバトビケラ科	イトウホソバトビケラ	○			R			
セセリチョウ科	チャマダラセセリ		○			EN		
シジミチョウ科	アサマシジミ北海道亜種	○	○	○	EN	EN		国内
	カラフトルリシジミ	○		○	N	NT	天	
	ゴマシジミ東北・北海道亜種	○	○	○	N	NT		
	リンゴシジミ	○	○		N			
タテハチョウ科	アサヒヒョウモン	○		○	N	NT		
	ウラギンスジヒョウモン	○				VU		
	ヒョウモンチョウ北日本亜種	○			DD	NT		
アゲハチョウ科	ウスバキチョウ	○		○	N	NT	天	
シロチョウ科	ヒメシロチョウ		○		VU	EN		
ジャノメチョウ科	クモマベニヒカゲ北海道亜種	○		○	N	NT		
	シロオビヒメヒカゲ札幌周辺亜種	○			NT	NT		
	ダイセツタカネヒカゲ	○		○	N	NT		
イエバエ科	キバネクロバエ	○			R			
オサムシ科	コヒメヒョウタンゴミムシ	○			R			
	ヒダカチビゴミムシ	○			R			
	ヒダカマルガタゴミムシ	○			R			
	ヒダカメクラチビゴミムシ	○			R			
	エゾアオゴミムシ		○		R			
	コハンミョウモドキ		○			EN		
	エゾアカガネオサムシ			○		VU		
	セアカオサムシ			○		NT		
	ルリマルクビゴミムシ			○	R			
コガシラミズムシ科	クビボソコガシラミズムシ	○		○		DD		
ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ		○	○		NT		
	キベリクロヒメゲンゴロウ			○		NT		
	ケシゲンゴロウ		○	○		NT		
	ダイセツマメゲンゴロウ			○	R			
エンマムシ科	ノッポロヒメエンマムシ			○	R			
エンマムシダマシ科	エンマムシダマシ	○		○	R			

表 2.2.12 (6) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・昆虫類）(2/2)

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
マルトゲムシ科	エカシマルトゲムシ	○		○	R			
ドロムシ科	ハセガワドロムシ		○	○	R			
カミキリムシ科	エゾカミキリ	○		○	R			
	カラフトヨツスジハナカミキリ	○			R			
	ケマダラカミキリ	○	○	○	N			
	ジャコウカミキリ	○			R			
	オクエゾトラカミキリ			○	R			
	コトラカミキリ			○		NT		
ハムシ科	ミヤマヨモギハムシ			○	R			
スズメバチ科	ニッポンホオナガスズメバチ	○				DD		
	モンスズメバチ	○				DD		
28 科	54 種	37 種	13 種	24 種	41 種	26 種	2 種	1 種

注) 【注目すべき種選定基準】

①○チョウ目については、

「北海道レッドリスト【昆虫>チョウ目編】改訂版（2016 年）」（北海道、平成 28 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、N：留意、DD：情報不足、LP：地域個体群

○コウチュウ目については、

「北海道レッドリスト【昆虫>コウチュウ目編】改訂版（2019 年）」（北海道、平成 31 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、N：留意、DD：情報不足、LP：地域個体群

○チョウ目、コウチュウ目以外の昆虫については、

「北海道レッドリスト（2001 年）」（北海道、平成 13 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、

VU：絶滅危惧 II 類、R：希少種、N：留意、LP：地域個体群

②「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群

③「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種、

生息：生息地保護区

表 2.2.12 (7) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・甲殻類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
アメリカザリガニ科	ザリガニ	○	○	○	VU			
1 科	1 種	1 種	1 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ① 「環境省レッドリスト 2022」(環境省、令和 2 年)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類、
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- ② 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月)
特天: 特別天然記念物、天: 天然記念物
- ③ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月)
国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種、
生息: 生息地保護区
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月)
国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種、
生息: 生息地保護区

表 2.2.12 (8) 帯広市・音更町・芽室町で確認された重要種（動物・貝類）

科名	種名	帯広市	音更町	芽室町	重要種区分			
					①	②	③	④
モノアラガイ科	モノアラガイ		○		NT			
	コシダカヒメモノアラガイ		○		DD			
ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	○	○		DD			
2 科	3 種	1 種	3 種	0 種	3 種	0 種	0 種	0 種

注) 【注目すべき種選定基準】

- ① 「環境省レッドリスト 2022」(環境省、令和 2 年)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 IA 類、EN: 絶滅危惧 IB 類、
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- ② 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月)
特天: 特別天然記念物、天: 天然記念物
- ③ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月)
国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種、
生息: 生息地保護区
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月)
国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種、
生息: 生息地保護区

(10) 景観

建設地は河川沿いの低地に位置しており、南側及び東側には河川が流れ、北側には農地と緑地が混在する。

「第3回自然景観資源調査 自然環境情報図」（環境庁、平成元年）によると、建設地及びその周辺には自然景観資源は分布していない。

(11) 人と自然との触れ合い活動の場

建設地及びその周辺における人と自然との触れ合い活動の場の分布状況を表 2.2.13 及び図 2.2.15 に示す。

帯広市・音更町・芽室町の各ホームページによると、建設地の周辺には3ヶ所の人と自然との触れ合い活動の場が分布している。

表 2.2.13 人と自然との触れ合い活動の場

番号	名 称
1	国見山遊歩道
2	帯広の森
3	緑ヶ丘公園

注) 番号は図 2.2.13 に対応する。

出典) 帯広市・音更町・芽室町各ホームページ

(12) 温室効果ガス

帯広市・音更町・芽室町では、それぞれの市町で温室効果ガス排出量の削減に向けた計画を策定しており、その概要を表 2.2.14 に示す。

表 2.2.14 帯広市・音更町・芽室町における温室効果ガス排出量と削減目標

市町村		二酸化炭素排出量		
		基準年	現況・中期目標	長期目標
帯広市	年次	2000 年	2016 年（現況）	2050 年
	排出量	146.0 万 t-CO ₂ /年	125.2 万 t-CO ₂ /年	72.2 万 t-CO ₂ /年以下
	削減率	—	14.2%削減	50%以上削減
音更町 ^(注)	年次	2013 年	2017 年（現況）	2050 年
	排出量	1.0 万 t-CO ₂ /年	0.9 万 t-CO ₂ /年	0.6 万 t-CO ₂ /年
	削減率	—	14.2%削減	40%削減
芽室町	年次	2007 年	2020 年 （中期目標）	2050 年
	排出量	17.4 万 t-CO ₂ /年	14.2 万 t-CO ₂ /年	3.5～6.9 万 t-CO ₂ /年
	削減率	—	18.2%削減	60～80%削減

注) 音更町の対象は、町が所有する全ての公共施設・公用車及び町が行う事務・事業に限定

出典) 帯広市環境モデル都行動計画（帯広市、平成 31 年 3 月）

第3次音更町地球温暖化対策実行計画（音更町、平成 31 年 1 月）

芽室町新エネルギービジョン（芽室町、平成 21 年 2 月）

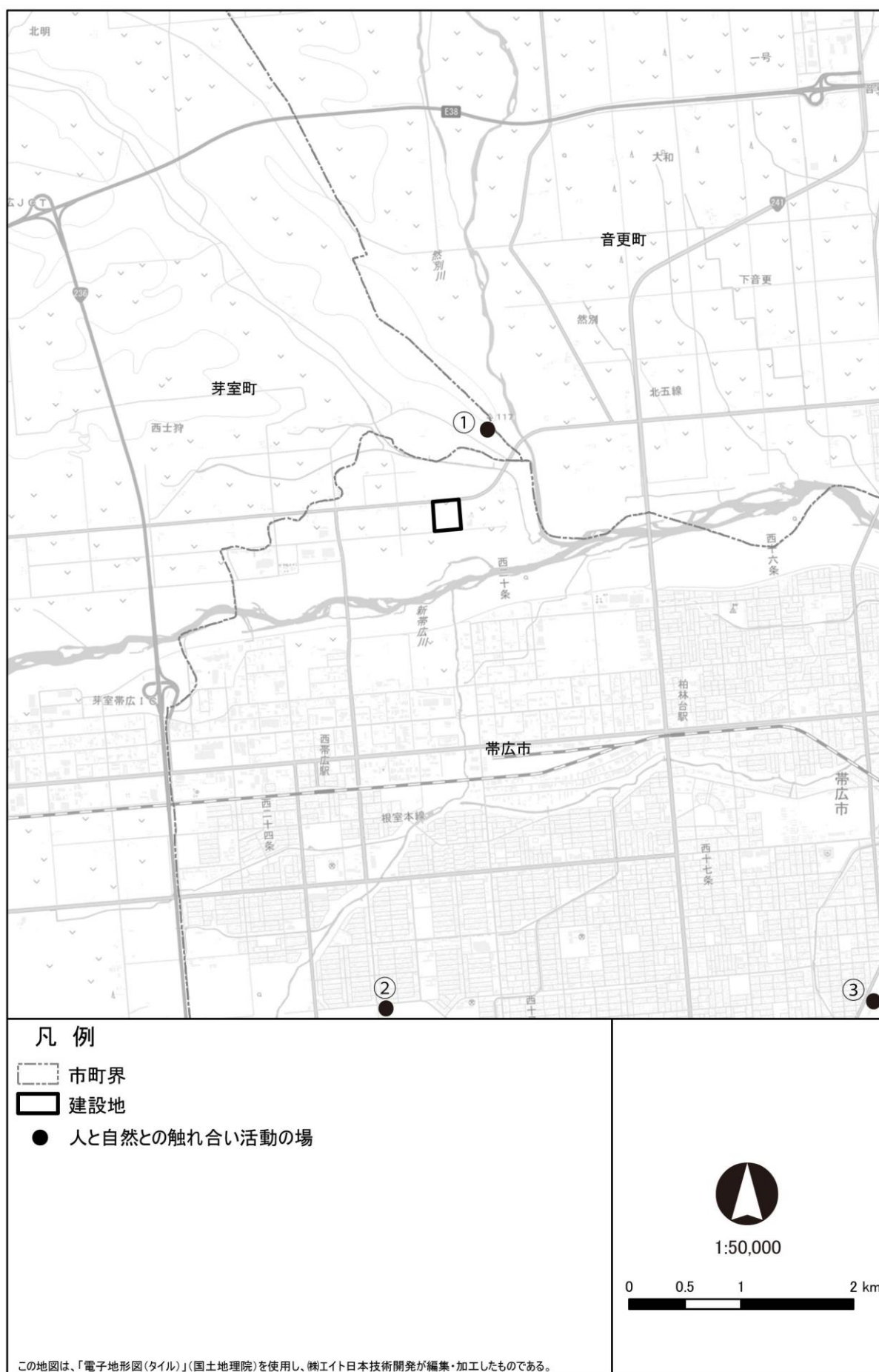


図 2.2.15 建設地周辺の人と自然との触れ合い活動の場

(13) その他の事項

1) 公害苦情件数

「北海道環境白書' 21」(北海道環境局環境政策課、令和4年1月)によると、令和元年度における北海道の人口規模別市町村における公害苦情件数は表2.2.13に示すとおりである。

人口10万人の市(都市部)では、廃棄物の不法投棄や騒音・振動の件数が多く、その他の市町村(郡部)では、悪臭の件数が多かった。

表 2.2.15 北海道内の市町村における公害苦情件数

人口規模	苦情		大気汚染	水質汚濁	騒音・振動	悪臭	廃棄物	その他	合計
都市部 ^{注1)}	件数	件	178	12	339	123	612	91	1355
	構成比	%	13.1	0.9	25.0	9.1	45.2	6.7	100
郡部 ^{注1)}	件数	件	45	27	42	84	47	47	292
	構成比	%	15.4	9.2	14.4	28.8	16.1	16.1	100
帯広市 ^{注2)}	件数	件	14	2	18	13	—	0	47
	構成比	%	29.8	4.3	38.3	27.7	—	0	100
音更町 ^{注3)}	件数	件	2	5	1	1	—	3	12
	構成比	%	16.7	41.7	8.3	8.3	—	25.0	100
芽室町	件数	件							
	構成比	%							

注1) 令和元年度の件数と構成比である。

2) 令和2年度の件数と構成比である。

3) 令和3年度の件数と構成比である。

出典)「北海道環境白書' 21」(北海道環境局環境政策課、令和4年1月)

「帯広市環境白書(令和3年度版)」(帯広市)

「音更町公害対策審議会」(音更町、令和4年)

「芽室町 環境土木課生活環境係」